

平成 27 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

<p>創立以来積みあげてきた実績に誇りを持つとともに、時代のニーズに対応した専門的機能を再構築し、地域や関係機関との連携を深める中で、一人ひとりの児童・生徒の特性や発達状況に応じた、最も必要で適切な教育実践をめざします。</p> <p>1 個を大切に、児童・生徒一人ひとりの自己実現をめざす学校 →Challenge 挑戦(Challenge)する児童生徒を育てる 小・中・高等部を通じた系統的なキャリア教育を実践し、個々に応じた社会的自立を目標に個別の継続的な支援をめざします。</p> <p>2 豊かな学校力を備え、保護者・地域から信頼される安全で安心な開かれた学校 →Change 変化(Change)する願いに応える 「授業力」「危機管理能力」「情報発信力」など学校力の向上に努め、保護者・地域・関係機関と連携し、豊かさのある開かれた学校をめざします。</p> <p>3 未来を見つめながら常にイノベーションを図る学校 →Chance 成果を共有化する機会(Chance)をつくる 時代の背景に着目し、そのニーズに対応した目標・内容を精選し、より質の高い知的障がい教育をめざします。</p>
--

2 中期的目標

<p>1 知的障がい支援学校としての専門性向上をめざす (1) 本校児童・生徒の授業や学校行事等における様々な指導方法及び家庭支援の在り方について、研修の充実を図り、専門性の向上をめざす。 ※ 25年度から3年間テーマを設定して、研修を深め実践報告する。→27年度が最終年度 ※ 授業力アップのために外部の助言者の支援を得られる機会(ハッカソン研修や外部人材の登用)を積極的に設ける。→平成29年創立20周年迄</p> <p>2 キャリア教育の充実をめざす (1) 小・中・高等部において実践している「キャリア発達の観点」を整理し、キャリア発達の観点から本校の教育再構築をめざす。 ※ 全校教育課程検討委員会とも連携し、12年間の一貫性のある教育課程(指導内容)を整理・深化を図る。→27年度が最終年度 (2) 高等部職業自立コースにおいて、独自のキャリア教育プログラム及び地域と連携した総合的な職場体験実習システムの構築をめざす。 ※ 職場実習先として協力企業を27年度には20社に増やす。→27年度が最終年度</p> <p>3 「個別の教育支援計画」及び「個別の指導計画」の充実・発展をめざす (1) 「個別の教育支援計画」について研修を進める中で、「個別の指導計画」との関連性を深めながら、日々の教育実践に取り入れることをめざす。 ※ 通知表と連動した全校統一様式を作成する。3年間で検証、深化を図る。→27年度が最終年度 ※ 27年度は、吹田市教育委員会・地元の大学と連携しつつ支援ネットワークシステムの構築・定着をめざす。 ※ 3年計画で27年度末までに支援センター室を整備し、ゼネラルコーディネーター(専任)の設置をめざす。→27年度が最終年度</p> <p>4 本校教育の再構築と教育内容の充実をめざす (1) アイデアを出し合うイノベーション委員会を継続実施し、機動力と発信力のある学校改革とミドルリーダーの人材育成をめざす。 ※ 運営委員会・PTAとも連携しながら新しい試みを考案する。→29年度迄の3年間は継続し、27年度は授業アンケートの充実を図る。 (2) 支援ボランティア等を活用し、学校行事や課外活動等の充実をめざす。 ※ ボランティアとも連携しながら新しい試みを考案する。→29年度迄の3年間は継続し、27年度は読書活動の充実を図る。</p>
--

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成27年10月実施分]	学校協議会からの意見
<p>① 本年度の特色 分析: 施設改善要求は継続、重点を実践することを期待</p> <ul style="list-style-type: none"> 回収率 100%(教職員) 学習(校舎等)環境の清潔維持増大 ICT/国際理解教育推進継続 引継・アタケア/共通理解の必要性大 	<p>第1回(7/8) 委員紹介・授業見学(小高学年課題学習)・経営計画・教科書選択・PT・進路等</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校に対して厳しくサポートする助言を行いたい。教科書選定の承認は実質難しい。 個別の計画の引継ぎ率倍増を評価。安全安心な学校づくり促進を。 PT(キャリア)進捗状況確認→国数以外積み重ねも。進路決定はニーズと希望を最優先で。
<p>② 回答者の意識変化 分析: 意識改善継続の難しさを実感</p> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> 交流機会の増加期待へ 連携後の内容充実へ </div> <div style="font-size: 2em; margin-right: 10px;">➔</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> チームとしての共有化への期待 授業力向上の要請 </div> </div>	<p>第2回(11/11) 下校風景見学・意見書・保護者意見交換等</p> <ul style="list-style-type: none"> 研修を実施するだけでなく、絶えず改善をめざす姿勢を。 進路決定が着実に進んでいることを評価。防災・ICT等教育重視と進路の定着支援の要請 学校力向上のツールとしての自己診断・PT 系統性への期待。授業アンケート同一項目への不安
<p>③ まとめ 分析: 重点指導(キャリア・防災)の充実・教職員の個性尊重をPDCAサイクルで。</p> <p>自由記述から</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒・「大人になった時の話」への期待(キャリア教育の必要性) 保護者・PT・授業の回数増/事案への不信と不安/チーム学校への期待他 教職員・多忙化解消への期待・事案対応とその対応に終始することへの不安 支援教育担当教員の専門性向上への努力と期待 「カソリツグマイト」の重要性とそのマイト発揮の精神的余裕を切望 	<p>第3回(1/27) 授業見学(中1分数)・経営計画評価・進路・自己診断結果等→提言等</p> <ul style="list-style-type: none"> 本年度の学校経営報告への提言 「授業は教員の要の仕事」授業研究の継続と促進を できることからの実践を 「創立20周年2017年」を契機に 21世紀の支援教育実践を PDCAの周知徹底とするという意識改革も

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
知的障がい支援学校としての専門性向上	(1) 本校児童・生徒の授業や学校行事等における様々な指導方法及び家庭支援の在り方について、研修の充実を図り専門性の向上をめざす。	(1) 専門性向上 ・25年度から3年間テーマを設定して、研修実践報告する。→27年が最終年度 ※ 授業力アップのために外部の助言者の支援機会(パッケージ研修等)を継続する。 ※ 外部人材の登用を積極的に設ける。→平成29年迄 ・授業力向上に向けて、授業見学システムを更に工夫する。 ・外部の専門家の活用を図る。 ・教材教具資料のデータベース化を進める。	(1) 専門性向上 ・校内研修会の内容・様子をHPにて公開する。 各学期に更新する。 ・他学部の授業を見学する機会を増やす。各部10人の見学を確保する。 ・外部の学識経験者を各学期招聘し、授業研究を進める。 ・教材教具のデータベース化 学期に1回以上	(1) 専門性向上 ・校内研修会の内容・様子をHPにて公開 各学期に更新 ○ ・他学部の授業を見学する機会を増やす。各部10人の見学を確保 △ ・外部の学識経験者を各学期招聘し、授業研究を促進 ◎ ・教材教具のデータベース化 学期に1回以上 ○ (1)を通じ、T・T(チームティーチング)を中核とする教員の特別支援教育の専門性の大切さの理解を進めることができた。
キャリア教育の充実	(1) 小・中・高での「キャリア発達の観点」を整理本校の教育再構築をめざす。 (2) 高等部職業自立コースの独自キャリア教育プログラムによる職場体験実習をめざす。	(1) 本校の教育再構築 ※ 全校教育課程検討委員会とも連携し、12年間の一貫性のある教育課程(指導内容)を整理・深化を図る。→27年が最終年度 (2) 職場体験の充実 ※ 職場実習先として協力企業を27年度に20社に増やす。→27年が最終年度 ・企業による学校見学を実施するなど、更に就労に向けた取組を充実させる。	(1) 本校の教育再構築 ・キャリア発達の観点から、指導内容を整理し、指導内容集を作成する。 平成28年1月末迄に作成 (2) 職場体験の充実 ・職場実習先として協力企業を開拓する。 27年度は新たに5社 ・職業自立コースにおける開拓した連携企業と、学校との交流取組をHPに掲載し、毎月更新を予定する。	(1) 本校の教育再構築 ・キャリア発達の観点から、指導内容を整理し、指導内容集を作成。平成28年1月末 ○ (2) 職場体験の充実 ・職場実習先として協力企業を開拓 27年度は新たに5社 ◎ ・職業自立コースにおける開拓した連携企業と、学校との交流取組をHPに掲載 △ (1)(2)から子どもたちのキャリア教育における自己効力感の向上に寄与できた。今後も定点観測を継続し、実践に期待したい。
「個別の教育支援計画」及び「個別の指導計画」の充実・発展	(1) 「個別の教育支援計画」について、「個別の指導計画」との関連性を深めながら、日々の教育実践に取り入れることをめざす。 ・地域支援センター校として、支援教育に関わる情報の発信を充実させる。	(1) 諸計画の活用 ※ 通知表と連動した全校統一様式を作成する。3年間で検証、深化を図る。→27年度が最終年度 ※ 27年度は、吹田市教委・地元の大学と連携し、支援ネットワークの構築・定着をめざす。 ※ 27年度末迄に支援センター室を整備し、ゼネラルコーディネーター(専任)の設置をめざす。→27年度が最終年度 ・センター的機能を充実 ・保護者支援を充実させるためにも、各学部での相談支援体制を更に充実させる。	(1) 諸計画の活用 ・「個別の教育支援計画」の支援ツール化を進め、1学期早期から新入生の保護者に働きかけるとともに、卒業後の進路先との連携のツールを活用する。 ・学校説明会等で働きかけ1学期早期から地元大学との連携の機会を設ける。 ・センター的機能を充実 ・巡回指導や支援活動を(約100回程度)行い支援する。 ・ゼネラルコーディネーター指名を行う。	(1) 諸計画の活用 ・「個別の教育支援計画」の支援ツール化を進め、1学期早期から新入生の保護者に働きかけるとともに、卒業後の進路先との連携のツールを活用 ◎ ・学校説明会等で働きかけ1学期早期から地元大学との連携の機会を設定 ◎ ・センター的機能を充実 ・巡回指導や支援活動を(約100回程度)行い支援し、ゼネラルコーディネーターを指名 △ (1)を通じ、保護者と教員の連携も深まり、計画の作成から活用段階へ移行し、早期からの内実把握促進に繋がっている。
本校教育の再構築と教育内容等の充実	(1) アイデアを出し合うイノベーション委員会を継続実施し、機動力と発信力のある学校改革とミドルリーダーの人材育成をめざす。 (2) 支援ボランティア等を活用し、学校行事や課外活動等の充実をめざす。	(1) 学校改革の推進 ※ 運営委員会・PTAと連携しながら新しい試みを考案する。→29年度迄の3年間は継続し、27年は授業アンケートの充実を図る。また、学校と保護者が意見交換する機会を設け、内容をまとめ、保護者・教職員に周知する。 (2) ボランティアの更なる活用 ※ ボランティアとも連携しながら新しい試みを考案する。→29年度迄の3年間は継続し27年度は読書活動の充実を図る。 ・防災計画を活用し、継続的取組を進める。	(1) 学校改革の推進 ・学校改革について具体的なアイデアとしての授業アンケートの充実を提案する。 ・年3回と別途懇談会の実施 ・学校と保護者のコミュニティー広場を1回は開催する。 ・ICT教育(タブレット等)・国際理解教育を各学期行う。 (2) ボランティアの更なる活用 ・学校行事、課外活動等に支援ボランティアを活用する。のべ25名・80回行う。 ・より実践的な避難訓練を実施する。 ・アプリを各学期活用する。 ・BCP(業務継続計画)に基づく訓練を春秋に行う。	(1) 学校改革の推進 ・学校改革について具体的なアイデアとしての授業アンケートの充実を提案 ◎ ・年3回と別途懇談会の実施 ○ ・学校と保護者のコミュニティー広場開催 ○ ・ICT教育(タブレット等)・国際理解教育実践 ◎ (2) ボランティアの更なる活用 ・学校行事、課外活動等に支援ボランティアのべ25名・80回以上 ◎ ・より実践的な避難訓練を実施 △ ・アプリを各学期活用 △ ・BCP(業務継続計画)に基づく訓練を春秋に実践 ◎ (1)(2)を通じ、根本的に本校の安全・安心な学校づくりの立て直しを図りつつある。今後もその継続が不可欠である。